備えのススメ

～地震などの災害に備えて～

ライフライン断絶　いざというときに

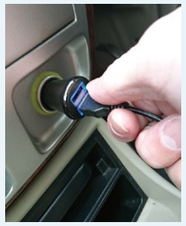
平成 28 年に起こった熊本地震からおよそ 3 年。熊本地震に関係するものを除いても震度 6 弱以上の地震は全国で 5 回発生しており、舞鶴市内でも緊急地震速報が 2 回発表されました（震度 2～3）。これらの地震は、大きな揺れが想定されている断層で発生したものではなく、全国どこでも起こりうるものです。特に平成 30 年 6 月の大阪北部地震では、ガスの供給停止や断水、鉄道の運休などのほか、同年 9 月の北海道胆振東部地震では大規模な停電など、甚大なライフライン被害が出ました。地震の揺れに備えるのはもちろんのことライフラインの断絶にも備えましょう。

毎年 1 月 17 日は「防災とボランティアの日」、15 日～21 日は「防災とボランティア週間」です。この機会に、身の回りの安全や地震が発生した場合の「備え」について考えてみませんか。　《危機管理・防災課》

電気がないと不便な世の中

普段当たり前のように使っている電気。お湯を沸かすのも、井戸水をくみ上げるのも、場合によってはトイレの水を流すのも電気がないとできません。情報収集や連絡手段である携帯電話も充電ができて初めて機能します。

車は貴重な電源に



電気自動車やハイブリッド車でなくてもソケット部品を付けることで車から少量ながら電気が得られます。また、エアコンで暖をとることも。しかし、被災直後は道路が寸断され、ガソリンスタンドのガソリンが枯渇することがよくあります。日ごろからガソリン残量に気を付けましょう。

水の確保は必須

断水してしまうと、飲み水を得る方法は給水車のみになります。しかし、断水時には、道路の寸断などで給水体制の整備に 1 日以上かかることがあります。水の確保は必須です。ペットボトル飲料などを常備しましょう。大人 1 人で 1 日 3 ㍑が必要といわれています。

あったら便利な備蓄品

カセットコンロ

IH コンロは停電時に使用できなくなります。お湯が沸けばできることが増えます。カセットボンベも備えておきましょう。

懐中電灯

照明は電気が来なくなるとつきません。最近では小さなサイズで十分に明るい物も売られています。

ラジオ

テレビやインターネットが見られなくなっても、情報を発信している可能性が大きいメディアです。

携帯電話予備バッテリー

たとえ電波が通じなくても、携帯電話はたくさんの便利機能を備えています。最近は災害後、携帯電話の充電のために行列ができるケースも少なくありません。

常備薬

血圧の薬など、なくなると生活の質の低下につながりかねません。

歯ブラシ・デンタルリンス

避難生活が長期化すると、口の中の衛生状況が悪化し、体調を崩しやすくなります。

その他

◇食品包装用ラップ　◇ビニール袋　など

※「東京防災」（東京都発刊）被災地を経験して重要だった物から抜粋

まいづる元気人 Vol.60

ズワイガニを守り　付き合うために

「漁獲はあげる」「水産資源も守る」両方やらなくてはならないのが漁業の大変なところ。京都府は他地域に先駆けてズワイガニを守り育てていく取り組みを実施してきました。平成 28 年にこの取り組みを全国青年・女性漁業者交流大会で発表し農林水産大臣賞を受賞した熊谷さんにズワイガニ保全の取り組みを話してもらいました。

京都府機船底曳網漁業連合会
大和丸
熊谷　謙 さん

「たてガニ」と「水ガニ」

脱皮を繰り返しながら成長するズワイガニは、脱皮後1年ほどは甲羅の柔らかい「水ガニ」という状態で、身入りも悪く「かにみそ」も少ないため安値で取り引きされていました。脱皮から1年ほどで甲羅が固く身も詰まった「たてガニ」となります。しかし、安いとはいえ値は付き、より分けて捨てるにも手間がかかるので水ガニも出荷していました。一方で漁師の間では「1年待てば高値な『たてガニ』になるのにもったいない」という共通の思いがあったといいます。そして、平成18年に水ガニの水揚げ禁止という全国でも初の取り決めへと舵を切りました。

調査の日々

とはいえ、一度取った水ガニを逃がしたところで死んでしまうのであれば意味がありません。そのため、水ガニをリリースすれば死なずに成長するかの調査を府農林水産技術センター海洋センターと一緒に始めました。この時ちょうど、水ガニをより分けて海へ帰す作業を担当をしていました。単に海へ帰すだけでは甲羅の隙間に空気が入り浮いてしまうので水をかけながら沈めていきます。忙しい漁の最中、他県から来た船は水ガニを取っているのを横目に、持って帰れば売れるものを手間をかけて海へ帰す。調査の結果が出るまでは疑問もぬぐい切れない思いでした。平成18～20年の間、船ごとに記録している「操業日誌」の漁獲数や水産センターによる「リリースした水ガニの生存率」などのデータが徐々に集まってくると、リリースした水ガニは約85％ものの確率で生存することが明らかになりました。

資源に垣根はない

ただ、安い水ガニは「安く買えるズワイガニ」として需要があるため、水揚げ禁止には仲買人の皆さんへの説明が必要でした。また、京都府の海域は兵庫県・福井県の漁船も操業しており、京都府の船が水揚げを禁止するだけでは不完全です。水ガニを取らないようにするだけでなく、他の漁業者や市場関係者との交渉と合意形成が欠かせません。調査結果の具体的なデータを示すことで舞鶴市場の仲買人の皆さんや兵庫県には理解を得られたほか、同じ日本海側の石川県も同様に水ガニの水揚げ全面禁止に乗り出しました。私たち漁業者と違って、ズワイガニには県境があるわけでもなく広く分布しているため、広域で連携して水ガニ保全に乗り出さなくてはいけません。今でも他県に協力を求めるための説明は続いています。ただ「県全体」で取り決めないといけないものの港ごとに漁業者の考え方も異なっているため時間のかかる交渉になると考えています。水産資源はなくなってしまえば終わりです。保全活動は取り返しがつかなくなる前に始めることが大切です。

今後は、若手漁業者など次世代を担う人に向けてアプローチしようと考えています。

まいづる花図鑑 vol.147

ピラカンサ（ピラカンタ）（バラ科）

南欧からヒマラヤ・中国原産の常緑低木で庭や生け垣に植えられる。日本には明治中頃にフランスから移入され、新宿御苑に植えられたのが最初。高さは1～2㍍くらいで根元から堅くとげのある枝をたくさん出して茂る。葉は楕円形で長さは5㌢くらい。初夏、葉腋から花柄を出し、白あるいは淡黄色の小さな花をたくさん付ける。果実は、秋遅くから冬にかけ赤や橙色に熟し美しい。

名前の由来は、属名「Pyracantha」から。「Pyro」は炎（のような実の赤さ）、「acantha」はとげの意。

【協力】瓜生勝朗／市文化財保護委員（植物分野）